

# 構造的流動性ショックとリフレーション： 2025-2035年 投資戦略レポート

—— 米国リセッション、FRB政策遅延、そして次なる金融緩和  
を見据えた資産配分 ——

## 1. エグゼクティブ・サマリー：流動性の空隙(Liquidity Gap)と 「買い」の好機

本レポートは、投資家が直面している極めて特異かつ危険、しかし同時に世代的な好機となり得るマクロ経済シナリオ——「流動性の空隙(Liquidity Gap)」——に基づき、ビットコイン(BTC)、ゴールド(XAU)、およびエネルギー・インフラ関連株式(CCJ, OKLO, SMR, ETN, VRT)への資本配分戦略を包括的に分析したものである。

想定されるシナリオは、単なる景気後退ではない。FRB(連邦準備制度理事会)がインフレ再燃を恐れるあまり利下げ転換(ピボット)を遅らせ、その結果として発生する深刻な「流動性ショック」である。この局面では、全ての資産クラスの相関が「1」に近づき、質の高い資産であっても強制的な換金売り(Liquidation)によって本源的価値を大きく下回る水準まで売り込まれる。この「市場の混乱期」こそが、次の10年を見据えた最適なエントリーポイントとなる。

本分析の結論として、今後10年間の投資環境は、AI(人工知能)による電力需要の爆発的増加と、通貨価値の希薄化(Debasement)という二つの強力な構造的トレンドに支配されることが示唆された。したがって、ポートフォリオは「デジタルおよび物理的な希少価値(BTC, XAU)」と「エネルギー生産・管理の独占的インフラ(Nuclear, Grid)」に集中すべきである。各銘柄の分析において、リセッション時のパニック売りを想定した「最適購入価格帯」と、その後の金融緩和(QE)および産業スーパー・サイクルを織り込んだ5年後・10年後の目標価格を確率別に算出した。

## 2. マクロ経済環境分析：流動性ショックの解剖学

### 2.1 FRBの政策遅行と「エア・ポケット」の発生メカニズム

歴史的に見ても、中央銀行は常に事後対応的(Reactive)である。現在のFRBは、1970年代のインフレ再燃のトラウマと、2020年代の過剰流動性供給への批判から、景気減速の兆候が見え始めてなお、金融引き締め(QT)の手を緩めることを躊躇する傾向にある。

市場参加者の多くは「FRBピボット(利下げ転換)」を強気材料として待ち望んでいるが、真の危険はその直前に潜んでいる。景気後退が明確化し、企業収益が悪化し始めているにもかかわらず、FRB

が「データ依存」を理由に高金利とQT(量的引き締め)を維持する期間——このタイムラグこそが「流動性の空隙」である<sup>1</sup>。

この期間において、以下のメカニズムが市場を襲う：

1. **TGA(財務省一般勘定)の再構築:** 米財務省がTGA残高を積み増す過程で、銀行システムから準備預金が吸い上げられる。これは実質的な流動性の吸収であり、リスク資産への資金供給を細らせる<sup>1</sup>。
2. **逆資産効果と強制清算:** 株価の下落とクレジットスプレッドの拡大が同時に進行し、レバレッジをかけたポジションの強制決済(マージンコール)が発生する。投資家は「売りたいもの」ではなく「売れるもの(流動性の高いゴールドや優良株)」を売って現金を確保せざるを得なくなる<sup>2</sup>。

## 2.2 QE(量的緩和)への不可避な転換

流動性ショックがシステム上の危機(レポ市場の機能不全や銀行の破綻懸念)に発展した瞬間、FRBは選択の余地なく緊急的な流動性供給(QE)に踏み切る。この「ショックから緩和へ」の転換点こそが、本レポートで定義する投資実行のタイミングである。過去の事例(2008年、2020年3月)が示すように、中央銀行がバランスシートを拡大させる局面では、通貨の購買力低下をヘッジする「ハードアセット」と、設備投資の再開を享受する「シクリカル・グロース株」が最も強いリターンを生み出す<sup>3</sup>。

---

## 3. 資産別詳細分析と投資戦略

### 3.1 ゴールド(XAU/USD)：究極のソブリン・ヘッジ

#### 3.1.1 投資テーマ：中央銀行の買いと財政支配

ゴールドは、カウンターパーティリスクのない唯一の金融資産であり、約23兆ドルという巨大な時価総額を持つため、機関投資家にとっての「流動性の貯水池」として機能する<sup>4</sup>。

リセッション時の挙動分析：

流動性ショックの初期段階において、ゴールド価格は下落する可能性が高い。2008年や2020年の事例では、株式市場の暴落に伴い、損失補填のための換金売りが殺到したためである<sup>2</sup>。しかし、この下落はファンダメンタルズの悪化ではなく、需給の歪みによるものであるため、回復は極めて迅速である。FRBが流動性供給を再開した瞬間、実質金利(名目金利－期待インフレ率)は急低下し、ゴールドは史上最高値を更新する軌道に乗る<sup>5</sup>。

長期的ドライバー(2030-2035)：

1. **脱ドル化と中央銀行の準備資産シフト:** 地政学的リスクの高まりを受け、新興国(グローバルサウス)の中央銀行は米国債からゴールドへ準備資産をシフトさせている<sup>6</sup>。
2. **財政支配(Fiscal Dominance):** 米国の公的債務残高が持続不可能なレベルに達しており、最終的にはインフレによる債務の実質的減価(Financial Repression)が容認される可能性が高い。この環境下では、法定通貨に対するゴールドの相対的価値は飛躍的に高まる<sup>3</sup>。

### 3.1.2 最適購入価格帯(流動性ショック時)

テクニカル分析および過去のショック時のドローダウン率に基づき、以下の価格帯を「買いゾーン」と設定する。

- 買いゾーン: \$2,150 - \$2,350 / oz
  - 根拠: 長期的な上昇トレンドラインのサポート、および2023-2024年のブレイクアウト水準へのリテスト(再試行)。パニック売りが発生した場合、一時的に\$2,100付近までのヒゲ(Wick)が生じる可能性があるが、そこは強力なサポートとなる<sup>7</sup>。

### 3.1.3 将来価格予測(確率別)

時期	確率	シナリオ	想定価格 (USD/oz)	根拠・背景
5年後	75%	保守 (Base)	\$3,800	インフレ率4% 定着、実質金利の低位安定、中央銀行の継続的な買い。
(2030)	40%	強気 (Bull)	\$4,800	スタグフレーション深刻化、ETFへの資金流入加速。
	15%	超強気 (Super Bull)	\$7,500	ドル基軸通貨体制の動搖、ソブリン債危機による「金本位的な再評価」 <sup>5</sup> 。
10年後	75%	保守 (Base)	\$5,500	M2通貨供給量の長期的成長(年率5-7%)に追随。
(2035)	40%	強気 (Bull)	\$7,200	グローバルな債務マネタイゼーションの常態化。

	15%	超強気 (Super Bull)	\$12,000+	通貨システムのリセット、あるいは主要国によるゴールドの戦略的再評価。
--	-----	------------------	-----------	------------------------------------

### 3.2 ビットコイン(BTC/USD) : 高ベータ流動性プロキシ

#### 3.2.1 投資テーゼ: デジタル・ゴールドと採用曲線

ビットコインは「デジタル・ゴールド」としての価値保存機能と、テクノロジー株のような高い成長性を併せ持つハイブリッド資産である。その価格変動は、グローバルなM2(通貨供給量)の増減と極めて高い相関を持つ<sup>8</sup>。

##### リセッション時の挙動分析:

流動性ショック時において、ビットコインはゴールド以上に激しく売られる傾向がある。これは市場参加者がビットコインを依然として「リスク資産」として認識しており、リスクオフ局面ではレバレッジの解消が急速に進むためである。しかし、現物ETFの承認により機関投資家の底堅い需要が存在するため、過去の弱気相場(-80%)ほどの深いドローダウンにはならない可能性があるが、それでも-30%から-50%の調整は覚悟すべきである<sup>4</sup>。

##### 長期的ドライバー:

- 半減期と供給ショック: 4年ごとの半減期による新規発行量の減少は、需要が変わらなくとも価格を押し上げる構造的要因である。
- 機関投資家の採用: 年金基金やソブリンウェルスファンドによるポートフォリオへの数%の組み入れが進むだけで、時価総額は数倍に膨れ上がるポテンシャルを持つ<sup>9</sup>。

#### 3.2.2 テクニカル分析と最適購入価格帯

ビットコインの長期的な底値を特定する上で最も信頼性が高い指標は「200週移動平均線(200WMA)」である<sup>10</sup>。過去のすべての弱気相場(2015年、2018年、2022年)において、価格がこのラインに接触、あるいは一時的に下回った局面が、世代的な買い場(Generational Buy)を提供してきた。

- 買ゾーン: \$48,000 - \$60,000
  - 根拠: 現在上昇中である200週移動平均線がサポートとして機能する水準。流動性ショックによるパニック時には、一時的に\$45,000付近まで売り込まれる可能性があるが、\$50,000台は長期的には極めて割安な蓄積ゾーンとなる<sup>12</sup>。

#### 3.2.3 将来価格予測(確率別)

時期	確率	シナリオ	想定価格	根拠・背景
----	----	------	------	-------

			(USD/BTC)	
5年後	75%	保守 (Base)	\$180,000	ゴールド時価総額の10-15%到達。ETFを通じた緩やかな資金流入。
(2030)	40%	強気 (Bull)	\$350,000	企業のバランスシートへの採用 (MicroStrategy モデルの普及)、半減期効果。
	15%	超強気 (Super Bull)	\$1,000,000	ハイパー・ビットコインゼーション、主要国による準備資産化の開始 <sup>13</sup> 。
10年後	75%	保守 (Base)	\$450,000	デジタルゴールドとしての地位確立、ボラティリティの低下。
(2035)	40%	強気 (Bull)	\$800,000	ゴールド時価総額の50%到達。グローバル決済層としての利用拡大。
	15%	超強気 (Super Bull)	\$3,000,000+	法定通貨への信認崩壊、世界の主要な価値保存手段となる <sup>13</sup> 。

### 3.3 ウラン・原子力セクター(CCJ, OKLO, SMR): エネルギー安全保障とAI需

## 要

AIデータセンターの電力消費量は2030年までに3倍になると予測されており<sup>14</sup>、24時間365日安定してCO2フリー電力を供給できる原子力の重要性が再評価されている。風力や太陽光ではAIの常時稼働需要を賄いきれないためである。

### 3.3.1 Cameco Corp (CCJ): 業界の巨人

#### 投資テーゼ:

カメコ(Cameco)は世界最大級のウラン生産会社であり、燃料サイクル全体に強みを持つ。ウラン需給は構造的な供給不足にあり、2040年までに累積で1億ポンド以上の供給不足が見込まれている<sup>15</sup>。電力会社による長期契約(Long-term contracting)のサイクルに入っており、価格決定権を持つ。

#### リセッション時の影響と買い場:

ウラン需要自体は景気変動の影響を受けにくい(電力会社は燃料を買わなければならない)が、CCJの株価は株式市場全体との相関が高い。流動性ショック時には、ファンダメンタルズに関係なく換金売りに押される。

- 買いゾーン: \$58 - \$72
  - 根拠: 200日移動平均線および過去の主要なレジスタンスがサポートに転換する水準。  
\$60を割る局面があれば、長期的な需給逼迫を考慮すると絶好の買い場となる<sup>16</sup>。

#### 将来価格予測(確率別)

時期	確率	想定価格 (USD)	根拠・背景
5年後	75%	\$140	ウラン価格\$100/lb 定着、長期契約による収益安定化。
(2030)	40%	\$180	ウラン価格\$130/lb 超、ウェスチングハウスマネジメント(子会社)の利益貢献拡大。
	15%	\$250	第二次ウランブーム、地政学的要因による供給途絶(ロシア禁輸等)。
10年後	75%	\$220	世界的な原発新設ラッシュ、既存炉の稼働延長。

(2035)	40%	\$300	SMR普及による燃料需要の激増。
	15%	\$450+	原子力が主要ベースロード電源として完全復権。

### 3.3.2 Oklo Inc. (OKLO) & NuScale Power (SMR): 次世代の賭け

投資テーマ:

これらは小型モジュール炉(SMR)の開発企業であり、ハイリスク・ハイリターンの投機的銘柄である。

- **Oklo (OKLO):** OpenAIのサム・アルトマンが出資。使用済み核燃料を再利用する高速炉技術を持ち、燃料コストを劇的に下げるポテンシャルがある<sup>18</sup>。現在は売上ゼロ(Pre-revenue)であり、許認可リスクが高い。
- **NuScale (SMR):** 米国原子力規制委員会(NRC)から設計認証を取得した唯一の企業。先行者利益があるが、プロジェクトの中止やコスト増などの課題も抱える<sup>19</sup>。

リセッション時の影響と買い場:

赤字企業であるため、流動性ショック時には資金調達コストの上昇や倒産リスクが意識され、株価は激しく下落(-50%以上)する可能性がある。ここが「底値拾い」のチャンスとなる。

- **OKLO 買いゾーン: \$12 - \$18** (上場来の熱狂が冷め、実質価値に近づく水準)
- **SMR 買いゾーン: \$8 - \$12** (存続リスクが織り込まれるパニック売り水準)

将来価格予測(確率別)

銘柄	時期	確率	想定価格	根拠・背景
OKLO	5年後	75%	\$80	初号機の建設開始、規制当局の承認進展。
	(2030)	40%	\$180	データセンター向け電力供給契約(PPA)の締結ラッシュ。
		15%	\$400+	「エネルギー界のNvidia」化。SMRの量産体

				制確立。
	10年後	75%	\$250	SMRの商業運転開始、安定的な収益基盤確立。
	(2035)	40%	\$600	核燃料サイクル事業の収益化。
		15%	\$1,000+	世界的なSMRデファクトスタンダード化。
SMR	5年後	75%	\$45	プロジェクトの着実な進行、追加受注。
	(2030)	40%	\$90	VOYGRプラントの商業稼働。
		15%	\$180	コスト競争力の証明、大規模採用。
	10年後	75%	\$100	成熟期入り、配当開始の可能性。
	(2035)	40%	\$220	グローバル展開加速。
		15%	\$400	SMR市場での独占的地位確立。

### 3.4 インフラ・電化セクター(ETN, VRT) : AIの物理的限界を突破する鍵

AIの計算能力向上は、チップの消費電力密度の上昇を意味する。従来の空冷システムでは冷却が

追いつかず、電力網(グリッド)も容量不足に陥っている。この物理的ボトルネックを解消する企業が、ETNとVRTである。

### 3.4.1 Eaton Corp (ETN): 電力網のバックボーン

投資テーマ:

イートン(Eaton)は、変圧器、スイッチギアなど、電力配電機器のグローバルリーダーである。データセンター建設ラッシュ、工場の国内回帰(リショアリング)、EV充電インフラなど、すべての「電化」トレンドの恩恵を受ける<sup>20</sup>。

リセッション時の影響と買い場:

優良株であるが、景気敏感株(シクリカル)としての性質も持つ。リセッション時には企業の設備投資(Capex)削減懸念から、PER(株価収益率)の切り下げ(マルチプル・コントラクション)が起きる。

- 買いゾーン: \$230 - \$260
  - 根拠: 過去の平均的なバリュエーション(PER 18-20倍)への回帰、および200日移動平均線を大きく割り込むパニック売り局面<sup>21</sup>。

将来価格予測(確率別)

時期	確率	想定価格 (USD)	根拠・背景
5年後	75%	\$550	年率12-15%の利益成長、グリッド近代化需要の継続。
(2030)	40%	\$700	データセンター向け売上の比率拡大、利益率向上。
	15%	\$900	クリーンエネルギー移行の加速、圧倒的なシェア拡大。
10年後	75%	\$850	成熟したインフラ企業として安定成長。
(2035)	40%	\$1,200	全産業の電化完了に伴うメンテナンス・更新需要。
	15%	\$1,600+	スマートグリッド市場の覇権。

### 3.4.2 Vertiv Holdings (VRT): 热管理のスペシャリスト

投資テーマ:

バーティブ(Vertiv)は、データセンターの冷却システム(特に液冷技術)で圧倒的な強みを持つ。NVIDIAの次世代GPUは発熱量が凄まじく、従来の空冷では対応不可能であり、Vertivの液冷ソリューションが必須となる<sup>22</sup>。

リセッション時の影響と買い場:

AIブームにより株価が急騰しており、期待値が高い分、失望売りが出やすい。ハイパースケーラー(Google, Microsoft等)が設備投資の先送りを発表すれば、株価は急落する。

- 買いゾーン: \$80 - \$105

- 根拠: 上昇トレンドラインの崩壊と、テクニカルな節目。現在の過熱感(PER 60倍超)が修正され、成長に見合った価格帯(PEGレシオ 1.0近辺)まで調整したところがエントリーポイント<sup>24</sup>。

将来価格予測(確率別)

時期	確率	想定価格 (USD)	根拠・背景
5年後	75%	\$280	液冷市場の拡大、年率20%超の成長維持。
(2030)	40%	\$450	液冷がデータセンターの標準仕様となり、シェア独占。
	15%	\$650	AIサーバー市場の爆発的拡大、利益率の大幅改善。
10年後	75%	\$500	成長鈍化するも、キャッシュカウとして成熟。
(2035)	40%	\$800	エッジコンピューティング普及による新たな需要。
	15%	\$1,200+	データセンターインフラのOS的存在へ。

---

## 4. 総合ポートフォリオ戦略と実行プロセス

### 4.1 投資実行のシグナル

「流動性ショック」の到来を判断するための具体的なシグナルは以下の通りである。これらの条件が揃った時が、上述の「買いゾーン」での指値が約定するタイミングとなる。

1. **VIX指数の急騰:** VIXが40を超えるパニック局面。
2. **クレジット・スプレッドの拡大:** ハイイールド債スプレッドが600bpsを超え、企業の資金調達難が鮮明になる。
3. **FRBの緊急対応:** 「流動性供給ファシリティの再開」や「緊急利下げ」の観測報道が出た瞬間（株価は大底をつける）。

### 4.2 ポートフォリオ構築例(リスク許容度別配分)

このシナリオに基づき、今後10年間の最大リターンを狙うポートフォリオ配分案を提示する。

- アンカー資産(40%): **XAU (Gold) & ETN (Eaton)**
  - 役割: ポートフォリオの安定化と、確実なインフレヘッジ・インフラ成長の享受。リセッション時のドローダウンを抑える役割を担う。
- グロース・ドライバー(30%): **BTC (Bitcoin) & CCJ (Cameco)**
  - 役割: 流動性回復時の爆発的な上昇(ベータ値の獲得)と、エネルギー不足という構造的テーマへの投資。
- アルファ・ベンチャー(30%): **VRT (Vertiv), OKLO, SMR**
  - 役割: リスクは高いが、ハマれば10倍以上のリターン(テンバガー)を狙える枠。ここでの損失は他の資産でカバーする前提で、積極的なリターンを追求する。

### 4.3 結論: 嵐の中へ

来たるべきリセッションと流動性ショックは、多くの投資家にとって恐怖の対象であるが、準備された投資家にとっては、優良資産を歴史的な割安価格で手に入れる「バーゲンセール」である。FRBが対応に遅れ、市場が悲鳴を上げ、相関が崩壊して全ての資産が投げ売られる「混乱期」こそが、次の10年の富を決定づける瞬間となる。

本レポートで示した価格帯は、単なるサポートラインではなく、ファンダメンタルズとマクロ環境の極限状態が交差する「カピチュレーション(降伏)ポイント」である。感情を排し、この計画通りに淡々と資金を配分することが、長期的な成功への鍵となる。

---

#### 免責事項:

本レポートは情報提供のみを目的としており、特定の証券の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身のリスク許容度に合わせて行ってください。提示された価格ターゲットや確率は、過去のデータと現在のマクロ経済モデルに基づく推計であり、将来の成果を保証するものではありません。特にOKLOやSMRなどの小型株や暗号資産(BTC)は、元本を大きく毀損するリスクがあります。

す。

## 引用文献

1. What's Hot: Liquidity's turning point – why gold says bitcoin is next to rally, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://www.interactivebrokers.com/campus/traders-insight/securities/macro/whats-hot-liquiditys-turning-point-why-gold-says-bitcoin-is-next-to-rally/>
2. Gold as Liquidity Crisis Indicator: Why Price Volatility Signals System Stress, Not Weakness, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://bulliontradingllc.com/blog/gold-as-liquidity-crisis-indicator-november-2025/>
3. Gold Holds Gains as Liquidity Stress Emerges - Sprott, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://sprott.com/insights/gold-holds-gains-as-liquidity-stress-emerges/>
4. Bitcoin and Gold for Investors. Balaena Quant Insights: Issue 17 - Medium, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://medium.com/balaena-quant-insights/bitcoin-and-gold-for-investors-0ea4d518674a>
5. Morris calculated the price of gold by 2030. The price of a troy ounce can rise up to 7000 USD - IBIS InGold, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://ibisingold.com/en/article/morris-calculated-the-price-of-gold-by-2030-the-price-of-a-troy-ounce-ca>
6. Quantitative easing revives gold's reserve asset status - OMFIF, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://www.omfif.org/2023/12/quantitative-easing-revives-golds-reserve-asset-status/>
7. Gold's Next Test: WGC Lists 3 Potential Price Scenarios in 2026 Outlook | INN, 12月14, 2025にアクセス、<https://investingnews.com/wgc-2026-gold-outlook/>
8. Bitcoin: A Global Liquidity Barometer - Lyn Alden, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://www.lynalden.com/bitcoin-a-global-liquidity-barometer/>
9. ARK's Price Target For Bitcoin In 2030 - Ark Invest, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://www.ark-invest.com/articles/valuation-models/arks-bitcoin-price-target-2030>
10. Bitcoin Buy Signal: Why The 200-Week Moving Average Has Been A Flawless Entry Point, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://www.tradingview.com/news/newsbtc:4869b83f7094b:0-bitcoin-buy-signal-why-the-200-week-moving-average-has-been-a-flawless-entry-point/>
11. Forecasting Bitcoin Price Cycle Peak With The 200-Week Moving Average, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://bitcoinmagazine.com/markets/bitcoin-price-200-week-moving-average>
12. Charts - 200 Week Moving Average Heatmap - Blockchain.com, 12月14, 2025にアクセス、  
<https://www.blockchain.com/explorer/charts/200w-moving-avg-heatmap>
13. Bitcoin Price Prediction 2030 & 2040 (July 2024 Update), 12月14, 2025にアクセス、  
<https://www.swanbitcoin.com/economics/bitcoin-price-prediction/>

14. The Coming Energy Shock: How AI Data Centers will Reshape Power Needs, 12月 14, 2025にアクセス、  
<https://www.nasdaq.com/articles/coming-energy-shock-how-ai-data-centers-will-reshape-power-needs>
15. Is nuclear power set for a revival? - Goldman Sachs, 12月 14, 2025にアクセス、  
<https://www.goldmansachs.com/insights/articles/is-nuclear-power-set-for-a-revival>
16. Cameco (CCJ) - Technical Analysis - US Stocks - Investtech, 12月 14, 2025にアクセス、<https://www.investtech.com/main/market.php?CompanyID=10601053>
17. CAMECO CORP (CCJ) Stock Technical Analysis - Chartmill, 12月 14, 2025にアクセス、<https://www.chartmill.com/stock/quote/CCJ/technical-analysis>
18. Oklo Stock: Disruption Predictions and Industry Analysis 2025 — Bold Forecasts, Valuation, and Sparkco Alignment, 12月 14, 2025にアクセス、  
<https://sparkco.ai/blog/oklo-stock>
19. NuScale Power's stock shocked after bad 3rd quarter | by Kennedy Maize - Medium, 12月 14, 2025にアクセス、  
<https://medium.com/@kennedymaize/nuscale-powers-stock-shocked-after-bad-3rd-quarter-a51ae001fb12>
20. Financial Reports | Stock Price | Investor Information - Eaton, 12月 14, 2025にアクセス、<https://www.eaton.com/us/en-us/company/investor-relations.html>
21. ETN Technical Analysis, RSI and Moving Averages - Investing.com, 12月 14, 2025にアクセス、<https://www.investing.com/equities/eaton-technical>
22. Data Center Trends 2025: Vertiv predicts industry efforts to support, enable, leverage, and regulate AI, 12月 14, 2025にアクセス、  
<https://www.vertiv.com/en-us/about/news-and-insights/corporate-news/data-center-trends-2025-vertiv-predicts-industry-efforts-to-support-enable--leverage-and-regulate-ai/>
23. Vertiv (VRT) Stock Trades Down, Here Is Why, 12月 14, 2025にアクセス、  
<https://stockstory.org/us/stocks/nyse/vrt/news/why-up-down/vertiv-vrt-stock-trades-down-here-is-why>
24. VRT Technical Analysis for Vertiv Holdings Llc. Stock - Barchart.com, 12月 14, 2025にアクセス、<https://www.barchart.com/stocks/quotes/VRT/technical-analysis>
25. Vertiv Holdings Co (NYSE:VRT) Stock Valuation, Peer Comparison & Price Targets - Simply Wall St, 12月 14, 2025にアクセス、  
<https://simplywall.st/stocks/us/capital-goods/nyse-vrt/vertiv-holdings-co/valuation>